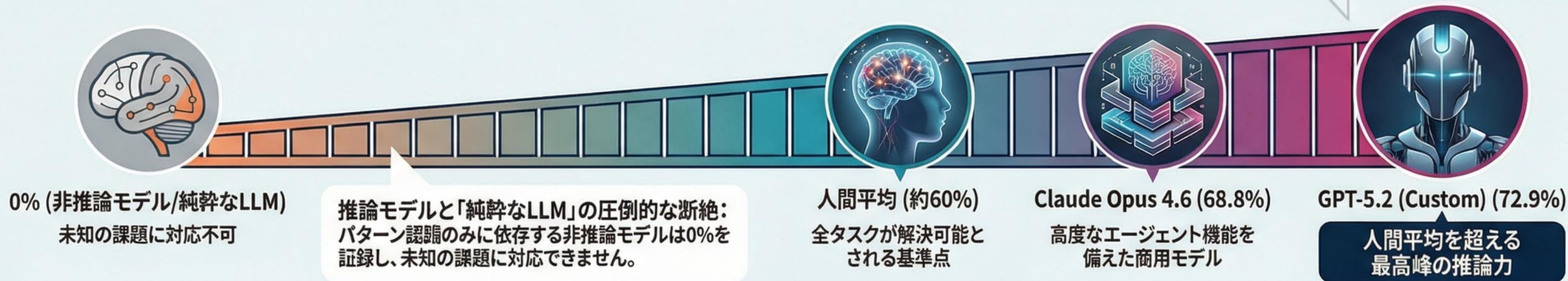


ARC-AGI-2が決定づける知財実務の「AI格差」

AIの抽象的推論能力 (ARC-AGI-2スコア) の差が、特許業務の質にどのような決定的違いをもたらすかを解説する。

知能の現在地：ARC-AGI-2 リーダーボード

人間平均 (約60%) を超えるトップモデルの台頭



知財実務への具体的影響

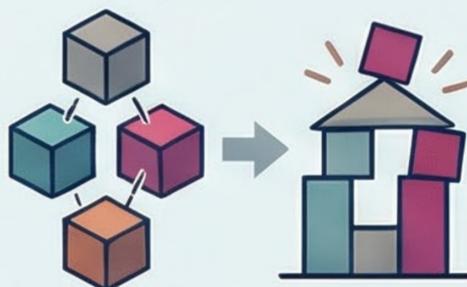
低推論モデル (純粋なLLM)

発明の「上位概念化」と「クレーム設計」の質



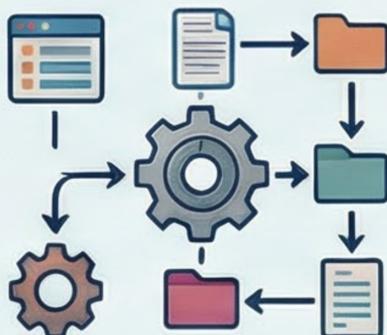
実施例に縛られた狭い表現に留まる

進歩性判断における複合的推論



論理構築が困難

2026年の潮流：エージェントワークフロー



補助ツール

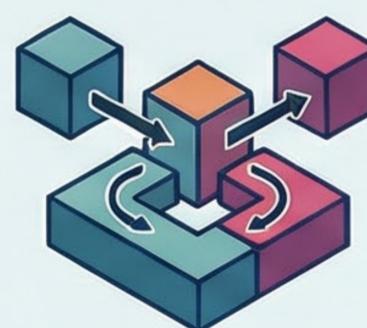
高推論モデル (GPT-5.2, Claude Opus)

発明の「上位概念化」と「クレーム設計」の質



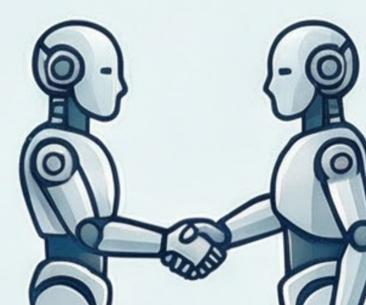
発明の本質を抽出、広範な権利化

進歩性判断における複合的推論



複数の先行技術を組み合わせる論理構築に不可欠

2026年の潮流：エージェントワークフロー



自律的に業務を完遂する推論パートナー